

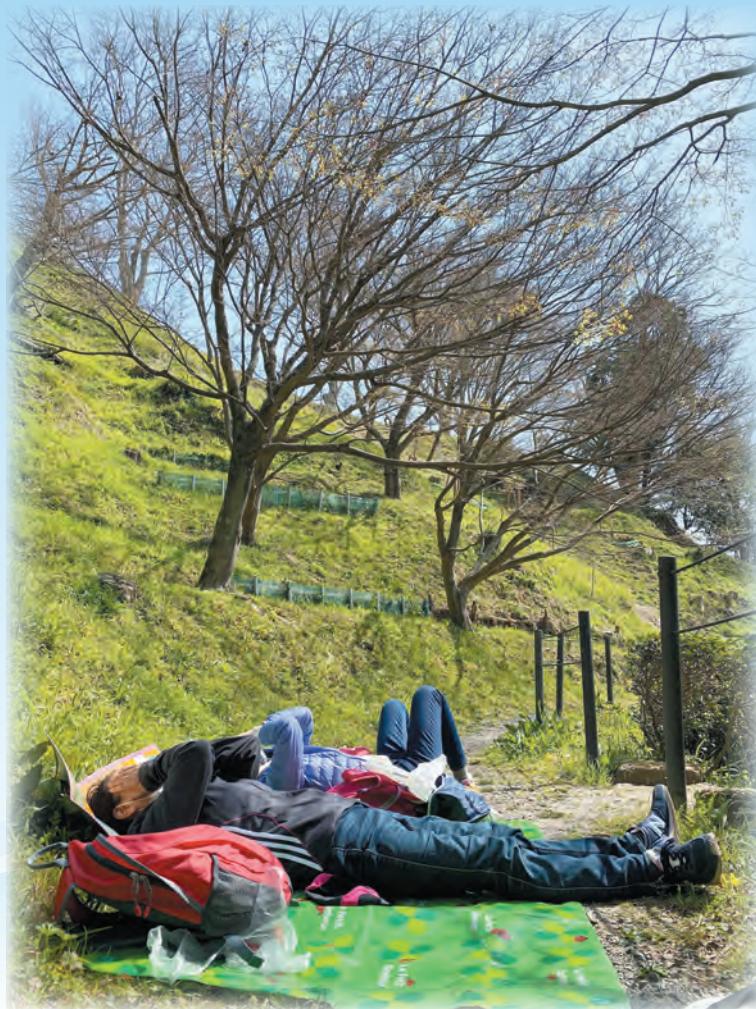
認知症地域支援推進員

活動ガイド

エッセンス版

～もっと楽に、楽しく、活躍を！～

2023年3月版



社会福祉法人浴風会
認知症介護研究・研修東京センター

認知症地域支援推進員が、地域を舞台に活躍しています

～小さなまちでも、大きなまちでも～

本人視点、本人の声、ともに、希望を

人・場・こと・事業をつなげながら

啓発・
本人発信支援



予防
(備え)



医療・ケア・
介護サービス・
介護者への
支援



認知症バリア
フリーの推進・
若年性認知症の
人への支援・
社会参加支援



目指すは、わがまちなりの“地域共生”

認知症地域支援推進員活動情報集を、どうぞご覧ください。



もっと楽に、楽しく活躍していくために

【全国調査結果より】2022年9~10月に実施

◆市町村調査結果：市町村担当者 1,098 (63.0%)

推進員の取組みを通じて、認知症があつても なくとも同じ地域でともに生きる（地域共生） 意識や姿が広がつてきている	52.9%
認知症施策の推進のために推進員は 重要な存在であり、推進員の機能強化を 進めたい	77.1%

◆推進員調査結果：推進員 3,690 (46.0%)

推進員活動は、やりがいがある	70.9%
推進員活動を今後も続けていきたいが、 負担感や雇用形態、法人の意向等で、 続けていけるかわからない	40.8%
推進員としてやりたいことがあるが、 できていない	項目により2~6割

推進員の機能強化に関する課題の整理（課題マップ）

市町村調査結果、推進員調査結果より

※併記した数字
市町村 推進員
5%以上差があり

市町村の構想・イニシアティブ

- ① わが町としての認知症施策の方向性・
方針が不明確・明確化が必要 $83.4 \div 83.1$
- ② 施策推進のための推進員の位置づけの
具体的な共有が不足・共有必要 $81.1 \div 81.7$

注：イニシアティブ
上位下達ではなく、
わが地域の先を見越して
主体的に構想を描き、
示す、動く

活動の体制づくり

- ③ 適切な人財の確保・配置のための
調整不足・強化必要 $80.3 < 91.3$
- ④ 活動・推進のフォーメーション
作り不足・強化必要 $80.0 < 83.8$
- ⑤ 分野横断の活動のための他部署への
推進員の周知不足・強化必要 $87.1 \div 87.2$
- ⑥ 近隣の市町村の推進員同士が学びあい
支えあう機会不足・必要 $84.6 > 82.3$
- ⑦ 推進員のみでなく、施策担当者が施策や
全国の新しい動きを都道府県や全国で
学ぶ機会の不足・必要 $65.1 < 76.4$

担当者と推進員の協働

- ⑧ わがまちの共生の具体的なイメージ
の共有不足・必要 $79.4 \div 81.4$
- ⑨ 推進員の活動の焦点について、
共有不足・必要 $82.3 \div 82.9$
- ⑩ 相談しやすい関係が不足・
強化必要 $36.7 < 43.1$
- ⑪ 一緒に地元の本人の声を聴く
場面の不足・必要 $70.9 < 73.1$
- ⑫ 関係機関や行政内関係部署との
具体的な調整不足・必要 $78.7 < 82.6$

活動の進め方

- ⑬ 古い認知症観をかえていくことが
不足・必要 $79.1 < 83.7$
- ⑭ 本人の声を起点とした取組みの
不足・必要 $88.9 \div 88.1$
- ⑮ 地域にあるものを活かした
創意工夫の不足・必要 $87.5 < 89.1$
- ⑯ 取組みをバラバラに行わず本人視点で
連絡統合の不足・必要 $85.0 \div 84.9$
- ⑰ 本人や地域と、行政をつなぐ機能の
不足・必要 $81.0 < 89.7$

推進員活動の成果創出・蓄積
持続発展できていない

推進員活動による変化／成果を
示せずにいる・未把握

*市町村担当者が
推進員兼任で1名配置
の場合は、担当部署との
協働について

その市町村での推進員配置の成果

市町村間での格差
施策の進捗、地域共生の進捗

★市町村の人口規模に関わらず、課題の関連構造が見られる。推進員が活躍していく伸びしろが大きい。

自治体として、推進員が活躍しやすくなる方策を推進員とともに検討し実行を（提案）

■推進員の機能強化に関する課題が多岐にわたっており、課題への部分的・単発的な対応を行っても、実質な機能強化が図られにくいことが予想される。

■各市町村の行政担当者と推進員（全員）が、以下のようなステップを辿りながら機能強化を協働で促進し、推進員が活躍していく環境を整備していくことが望まれる。

■各都道府県は、市町村の実情・提案等を把えて、機能強化促進のバックアップを

このステップを
関係作り・協働に
活かそう

市町村

ステップ1：行政担当と推進員が一緒に、機能強化に関する方策の検討をする
※行政担当者のみが推進員の場合も、行政担当部署や関係部署と検討をする

1. 活動の実際や成果も踏まえながら、各自が課題とやりたいことを具体的に確認する
2. 1を持ち寄り、機能強化に向けて率直な意見交換を行う。
3. 活動強化の優先課題を明確にしながら、各市町村としての「機能強化方策」を一緒につくる。

*「方向性」を再確認しながら、そのための強化方策を
*必要に応じて、市町村の計画、推進員の活動計画に反映を。
*必要に応じて、都道府県へ、強化方策の相談・提案を行う。

ステップ2：各立場を生かして機能強化に向けて方策をアクション

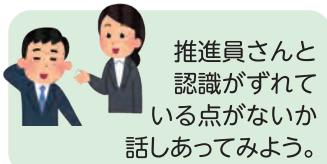
◆市町村担当者が
◆推進員各自が + ◆推進員同士が協働で ★担当者と推進員が協働で

市町村全体にむけたバックアップ ↑ 市町村個別にむけたバックアップ

都道府県

管内市町村の実情・課題、工夫・提案等の把握⇒都道府県としての推進員の機能強化方策の検討

*推進員の中には、推進員同士が機能高めあうための推進役を積極的に担っていきたいと回答した人が約1割いる。
それらの人たちと連携協働して、お互い楽に、効率的に、推進員の機能強化を進めていくことが望まれる。



行政の担当者も、推進員も本当に忙しい！
だからこそ気軽に言い合える関係をつくって、方向や方針合わせをしながら、無理や無駄なく一緒に進もう。



- ・大切なことは、とてもシンプル
- ・手がかりは、本人の声、地域の声の中にあります。
- ・認知症というより、人と暮らし、わが町を見てみると、すでに地域共生の芽がたくさん！
- ・難しく構えずに、まちにあるものを大切に、伸びやかに、自由で楽しい企画を出し合おう。
- ・できることからアクションを。息長く、続けていこう！



本人からのメッセージ

- 私たちからみて、身近な人であってほしい。
- 推進員さんに会えて、本音を出せるようになった。
私たちの声を、地域の人たちや医療、介護、行政に、届けてほしい。
- 特別なことはいらない。あたりまえのことをふつうに
続けられるまちを、いっしょにつくってほしい。
- 不安はあるけど、推進員さんがいつも前向きで
楽しそうなので、救われる。何とかなるって思える。
いつも、ありがとう。
- 異動しても、その先で活躍してほしい。

各地のご本人、ご家族、認知症地域支援推進員、関係者のみなさま

写真・体験の共有を本当にありがとうございました。

岩手県矢巾町 新潟県湯沢町 東京都品川区 神奈川県大和市 静岡県藤枝市
静岡県富士宮市 和歌山県御坊市 鳥取県鳥取市 香川県綾川町 鹿児島県大和村



すいしんいんネット
推進員同士の自主的なネットワーク



DCネット
認知症地域支援推進員ページ